



1日歯医者さん(歯科クリニック)の様子

医療技術学部 臨床検査学科の開設を迎えて



医療技術学部 臨床検査学科 教授 幸村 近

医療のなかで臨床検査は欠くことのできない要素です。日本人の主要死因であるがんや心血管疾患の診断、予防医療としての各種健診での判定など、臨床検査なしでは立ち行きません。そして、その臨床検査を行っているのが臨床検査技師です。

日本の臨床検査技師の資格は「臨床検査技師等に関する法律」に定められています。臨床検査業務は大きく「検体検査」と「生理学的検査」に分けられます。検体検査は、法律に規定されている省令により、微生物学的検査、免疫学的検査、血液学的検査、病理学的検査、生化学的検査、尿・糞便等一般検査、遺伝子関連・染色体検査とされています。また、生理学的検査(生理機能検査、生体検査などとも呼ばれる)には、心電図検査、脳波検査、筋電図検査、呼吸機能検査、超音波検査、MRI、眼底写真検査、聴力検査などが含まれます。このほか検体検査に用いられる検体の採取、たとえば静脈採血は、看護師だけではなく臨床検査技師が行う施設が多くなっています。

このように、医療のさまざまな分野で用いられる臨床検査に携わる臨床検査技師には、幅広い医学的知識と高度な専門的技術が求められるのみならず、

近年の患者中心医療の発展に伴いチーム医療の一員としての協調性やコミュニケーション能力が一層要求されるようになりました。また、今後は、患者・利用者へ向けての直接的な検査説明・検査相談を行う機会や、在宅医療への関わりも増えていくことが予想され、検査室で仕事をしてきた臨床検査技師も、外へ飛び出して活躍の場を広げようとしているところです。

医療技術学部臨床検査学科は、このような時代に相応しい人材を輩出するため、このたび、2019年4月に開設されます。折しも約30年続いた平成が終わり新たな時代を迎える年に、若く未来のある第1期生を迎えられることは喜びに堪えません。

本学部本学科の新設にあたっては、さまざまな方々のお力添えがありました。今後の道筋は平坦なものではないと思いますが、大学内外の方々のご協力を賜りながら、スタッフ全員が一丸となって与えられた仕事を全うする所存です。まもなく開学50年になろうとする北海道医療大学の歴史に新たなページを加え、今後の発展に貢献していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

CONTENTS

| | |
|---|----|
| 医療技術学部 臨床検査学科の開設を迎えて | 1 |
| 新任教員紹介 | 2 |
| 定年退職される先生からのメッセージ | |
| 北海道医療大学病院 | 4 |
| 地域連携「地域に開かれ、 地域から求められる大学をめざして」 | 5 |
| 同窓会活動状況 | 6 |
| 2019年度 入試結果速報 特別賞受賞者の紹介 | 8 |
| 私の学生時代 | 9 |
| OG訪問[看護学科] | 10 |
| あのととき、これから。医療大。 | 11 |
| インターネットによる ご寄附が可能となりました EDITOR'S NOTE | 12 |

新任教員紹介

新任教員

平成31年1月1日付け



医療技術学部 講師

丸川 活司 (まるかわ かつじ)

札幌医学技術専門学校卒業。北海道大学大学院医学研究科・医科学専攻博士課程修了。総合病院旭川赤十字病院病理部、北海道大学病院病理部、同医療技術部副技師長(病理部主任技師)等を経て、本学就任。医学博士。

Message

定年退職される先生からのメッセージ



薬学部 教授
齊藤 浩司

私は1996年4月に薬学部薬剤学研究室助教授として採用されました。それまで北海道大学医学部附属病院(現北海道大学病院)で薬剤師としてずっと勤務していましたので、当初は大学教員として自分はどこまでやれるか自問自答の繰り返しでした。私が着任した頃は全国の薬学部で医療薬学教育の充実化が図られようとしていた時期で、学位を有する薬剤師が医療現場から何人も大学教員として転出しました。1999年1月から薬剤学研究室をお預かりしてきましたが、定年まで何とか職責を全うすることができたのは、前任の高田昌彦名誉教授はじめ、学内外の多くの方々のご指導・ご支援のお陰であり、深い感謝の念に堪えません。

振り返ってみると、この二十数年の中で学部運営も含め実にいろいろなことに取り組む機会を与えていただき、その一つ一つが大学教員として自分が成長する糧になって

いったように思います。薬学教育がまだ4年制だった頃、薬剤学研究室には多くの大学院生が所属してくれました。まだ50歳前後で血気盛ん(?)な私の叱咤激励に耐えながら頑張ってくれた研究成果は、私の生涯の宝です。病院薬剤師時代からアルコールに多少の自信を持っていた私は、学生たちとしばしば当別の焼鳥屋さんに繰り出してどんちゃん騒ぎをし、出入り禁止寸前になったこともありました。懐かしい思い出が一杯詰まった23年間でした。

薬学部には新しい先生方も次々に加わるようになり、私と同年代の先生方を第二世代とすれば、徐々に第三世代へと移りつつあります。若い先生方には日本の薬学教育の最先端を進む北海道医療大学薬学部の創造をめざして大いに活躍されること、そして、本学が更なる発展を遂げられることを心よりお祈り申し上げます。



看護福祉学部 教授
平 典子

振り返れば

26年…看護福祉学部開設と同時に歩んできた年数、道のりとして、ただただ感慨深い。

着任したのは、開設3年目となる1995年でした。当時なぜか、「大学院をおえたばかりの新任27歳」という触れ込みだった。当然(?)、積極的に修正しなかったために、数年以上15歳ほど年齢詐称し過ごしていたものです。当初の驚きは二つ。教員としてお話をいただいたときの殺し文句、「札幌から車で30分」とはあいの里からだったもう一つは、学生が近い気づくと、すぐ後ろにひっついてくる。昼には、メロンパンを持参し食べにくる。長期の休み直前は、研究室に大きなカバンがごろごろ置かれる。彼ら曰く、食事する場所がない、ロッカーが狭い、居場所がない。まあ、もっともな言い分ではあります。自身の学生時代でも前任校でも、ついぞ経験したことのない学生との距離感でした。思えば、この自由な感覚、明るさそして学生との距離感こそが、私をこの大学に引き留めたマグネットだったのだと気づきます。

本務について思い出されるのは、学部の創生時期、しか

も1年目から教育が始まる講座でしたから平均睡眠4時間で走り続けている姿です。それでも、道内初の看護系大学としてテキストの切り貼り教育はするまいと、皆パッションを持ちエネルギーに過ごしていたものです。為し得たものがあるとしたら、開設当時の先輩から脈々と受け継がれた技術教育について、看護技術の構造化の研究に取り組み、模倣や暗記型の「何を」するのではなく、原則を核として「なぜ」そうするのか柔軟に考え成果を生み出していく技術習得へと組み直したことでしょうか。これは、看護学の伝統的な教育法と一線を画し、「医療ブランド」の柔軟に自由に考える力の育成として後輩に受け継がれていくものと期待しています。また、ライフテーマとして継続的に取り組んだ研究は、「がん患者とあゆむ家族の会」として結実し、がん看護専門看護師となった修了生の協働のもとがん診療拠点病院の活動として根つき始めたこともうれしい限りです。

振り返れば、何と楽しく充実した26年であったことか。この間出会ったすべての方に、感謝申し上げます。

定年退職される先生からのメッセージ



看護福祉学部 教授
鈴木 幸雄

1993年4月、看護福祉学部の開設と同時に助教授として赴任し、この3月末で定年を迎えることになりました。思えばあっという間の26年間でした。これまで、多くの皆様に支えられながら無事定年まで勤めることができましたこと、衷心より感謝申し上げます。

振り返ると、社会福祉専門職養成教育の充実に向けて決意を新たに赴任した当時の記憶が蘇ってきます。臨床福祉学科(当時は医療福祉学科)は開設時から、「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づく社会福祉専門職の養成教育を行ってきました。社会福祉実践の基礎となる「実習」「実習指導」「演習」の教科目を重視し、高度化・多様化する福祉現場の要請に応えられる、人権感覚(社会正義)と実践能力を備えた社会福祉専門職の養成を社会福祉実習教育の目標としてきました。OSCE等も

初期の段階で導入し、充実した実習教育内容は、全国の福祉系大学でトップ水準にあります。卒業生は北海道の福祉の中核を担い、先駆的な実践は全国のモデルになっています。

今改めて、多くの教職員の皆様、福祉施設・機関関係者の皆様、そして学生の皆様に支えられて、この26年間を過ごして来られたと感じております。特に、私を育ててくれた学生諸君は私のお師匠様であり、財産でもあります。

最後になりましたが、皆様に深く感謝申し上げますとともに、皆様の今後の更なるご活躍と、本学の益々のご発展をお祈り申し上げます。長い間有り難うございました。



心理学部 教授
リハビリテーション科学部 教授
今井 智子

2003年4月に心理学部言語聴覚療法学科に着任し、2019年3月までの16年間(2016年4月から当別キャンパス)北海道医療大学に在職しました。着任は札幌あいの里キャンパスでした。その前は、北海道の方は多分ご存知ないと思いますが、栃木県大田原市というところにある国際医療福祉大学で教鞭をとっていました。前身である札幌医療福祉専門学校言語聴覚療法学科が4年制大学になるにあたり、北海道出身(苫小牧市)の私に声を掛けてくださったものと思います。高校卒業以来〇〇年ぶりの北海道生活でしたので、着任当時は冬の雪の多さと寒さが堪えました。あいの里もその当時は今よりも雪深い地だった記憶があります。

札幌あいの里キャンパスは心理学部のみのごちんまりしたキャンパスでしたので、学生と教員の間が非常

に近い印象がありました。心理学部1期生から多くの卒業生を送り出してきましたが、やはり1期生・2期生の印象が強く残っています。その彼らが10年以上のキャリアを持つ中堅となり、実習指導者として後進を育て、また、教員として後輩を指導してくれるのを見て、とても心強く頼もしく感慨深いものを感じます。

最後に、言語聴覚士は比較的新しい医療職です。北海道医療大学の卒業生が、北海道だけでなく日本の言語聴覚士界を牽引してくれることを心より祈念して、退職の挨拶にさせていただきます。長い間大変お世話になりました。



薬学部 准教授
遠藤 哲也

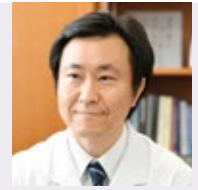
以上の諸先生のほか、
薬学部 遠藤 哲也 准教授が定年退職されます。
ありがとうございました。

With heartfelt thanks.



病院長からのメッセージ

北海道医療大学病院は、職員投票で選ばれたキャッチコピー「地域とともに育む信頼の医療と支えあう福祉」「みんなの思いを集めた医療、ここにあります」のもと、一致団結して良い医療機関・良い教育機関であること、同時に良い職場でもあるよう、努力しています。これらは両立できる、いえ、本来は両立するはずです。おかげさまで診療実績も急上昇しておりますが、その過程で一人一人が成長できなければ意味がありません。自分だけで成長しようと思っても無理で、仲間みんなで成長し、是非ここからどンドン全国・世界へ羽ばたいてほしいと思います。ここに集う職員や学生が夢を持ち、そのチャンスをつかめる場所、そんな病院をめざしています。



きただち のふよし
病院長 北市 伸義

NEWSトピックス 高次脳機能障害(もの忘れ)外来

昨年11月に、高次脳機能障害(もの忘れ)外来が、開設されました。外来日は毎週火曜日午前で、地域連携室経由での完全予約制となっております。高次脳機能障害といっても馴染みがない方もおられると思います。高次脳機能障害とは、例えば脳梗塞などが生じると、言葉がでてこない、あるいは言葉の理解ができない、道がわからなくなる、ものが覚えられない、すぐ忘れるといった症状をさします。大脳が損傷されて生じる症状すべてをさしますので、したがって認知症もこれに含まれます。この外来では、高次脳機能障害を評価することで、現時点での状況や原因疾患を把握し、それに

より薬物治療やリハビリテーション(言語聴覚治療室との連携)、これらの悩みをお持ちの方を手助けする公的な援助(社会資源等)の活用(地域連携室との連携)の可能性を広げたいと考えます。

当外来は、このような目的で開設されたため、精神科疾患の診断や治療は行いません。また夜間や入院での対応はいたしていません。MRIやSPECTを用いた検査などが必要な場合には、他病院と連携しながら、地域へのお手伝いを主たる任として医療を行っていきたくと考えております。

なかがわ よしつぐ
高次脳機能障害(もの忘れ)外来担当医師 中川 賀嗣

リハビリテーション室紹介 「野球肘検診」報告

リハビリテーション室ではあいの里地区の野球チームを対象に、少年野球肘検診を毎年行っています。今年度は12月9日に北海道医療大学病院地域包括ケアセンターで28名の選手を対象に行いました。

検診内容は身長・体重・四肢筋肉量の計測、超音波エコーを用いた肘関節骨軟骨障害の検診、理学療法士と北海道医療大学の学生による四肢体幹の柔軟性、筋力、パフォーマンスチェック、高速度カメラを用いた投球フォームチェック、理学療法士による野球肘についての講演とストレッチ指導です。検診スタッフは整形外科医1名、看護師1名、理学療法士3名、大学院生4名、本学理学療法学科学生7名、本学理学療法学科教員2名が参加し、今年度からは学生ボランティアにストレッチ指導や計測補助に加わってもらい、スポーツ現場での理学療法士の活動を経験してもらいました。科学的に正しくスポーツを楽しんでほしいと思います。

やまね まさひろ
リハビリテーション室 理学療法士 山根 将弘



地域貢献活動報告 「1日歯医者さん」報告

1月8日、冬休み恒例地域連携企画「1日歯医者さん」が開催され、小学1~3年生の9名が職業体験に参加しました。参加者は、川上副院長の合図で子ども用白衣に着替えると、最初に歯科技工士と歯型を取るアルジネート印象材で自分の指の型取りを行い、石膏模型を作製、次に臨床検査技師と口の中の細菌を顕微鏡で観察しました。さらに齊藤小児歯科医長に教わりながら、3人一組で患者と歯医者役になり、歯科ユニットで互いのブラッシングや人工の歯を削り治療用のプラスチックを詰めるむし歯の治療体験をしました。病院探検としてリハビリテーション室や放射線部など見学した後、北市病院長から一人一人に修了証が手渡されると、子どもたちからは「楽しかった」「歯医者さんかっこいい」「石膏の指の模型、本物みたいですごい」「顕微鏡が面白かった」などの感想が聞かれました。

これからもこの企画が子どもたちの「歯の大切さ」や「もっと知りたい」などへの興味の深まりにつながればと思います。

よしの ゆか
医療相談・地域連携室 医療ソーシャルワーカー 吉野 夕香





地域に関かれ、 地域から求められる大学をめざして

北海道医療大学地域連携推進センター長 坂野 雄二
心理科学部特任教授

すみません、少し堅苦しい話から スタートしますが…

社会と共生・協働する自由で開かれた大学を志向し、21世紀の新しい健康科学の構築を追究するという行動指針に基づいて、本学では地域連携の基本方針・施策として、次のようなことを掲げています。

①医療・保健・福祉に関わる地域の「知の拠点」として、積極的に地域の活性化に関わり、地域に関われた大学を目指します。地方自治体等との連携事業を積極的に行い、大学は地域発展のためのシンクタンク機能を果たします。

②地域の課題に関心を持ち、解決に積極的に取り組み、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を推進します。また、そうした人材を育成するための質の高い教育・研究環境を整え、地域課題の解決を目的とした研究活動を活性化します。

③地域の「知の拠点」として、本学が持つ知的な財産を地域社会にフィードバックする活動を積極的にを行います。

本学は開学以来さまざまな地域貢献活動を行ってきましたが、時代のニーズに応え、大学として地域連携・貢献活動を一層活性化するために、2015年4月、地域連携推進センターが設置されました。

地域連携推進センターは 何をやっているの？

それでは、地域連携推進センターの事業について、最近の話題を簡単に紹介したいと思います。

本学は2013年に滝川市、および当別町と包括連携協定を締結しました。

滝川市とは、各種連携事業を開始するために直ちに連携協議会が立ち上げられ、いくつかの部会を組成して連携事業がスタートしました。さまざまな教育研修事業への教員の派遣、市内医療機関での調査研



当別小学校での出前講座



究の実施、本学学生の臨床実習の受入れ、スクールカウンセラー事業への参画等、連携事業は多岐にわたって現在に至っています。今、滝川市との連携事業は、新たに地域の課題を明確にし、その解決に向けた次のステップに進もうとしています。

一方、当別町との間では2016年に連携協議会が設置され、共同作業が始まりました。もちろんそれまでも、多くの教職員、講座等が当別町の各部署と協力しながらさまざまな活動を行ってきました。しかし残念なことに、大学としてそれらの活動をバックアップする体制は弱く、大学としてどう連携し、成果をどう情報発信するかという点も十分検討されていませんでした。そこでセンターと当別町では、各種連携事業の窓口の一本化を図り、大学と町が連携の有り様を俯瞰する中で課題を共有し、効果的に連携事業を行うこととしました。連携協議会は月1回開催され、活発な議論が行われています。

これまで、町の「学生居住1,000人計画」の実現に向けて協力する中から、学生にとって生活しやすい街づくり(各種町内インフラの整備、快適な居住空間の増設・改修、学習可能な施設の確保等)に取り組んできました。また、大学関係者からのふるさと納税の連携事業への還元、学生の意見を町政に反映するためのタウンミーティングの開催、JR北海道医療大学駅

の利便性の向上、町政に関する調査研究の受託、大学病院の積極的活用に向けた啓発、町内小学校での出前講座、高齢者の健康増進・福祉に向けた各種事業等、多くの事業を共同で展開しています。

また、2017年には北海道教育委員会と包括連携協定を締結し、いじめ対策など北海道の教育現場が抱える課題の解決に向けて、本学の持てる力を発揮しようと連携活動が行われています。さらに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの養成という本学の教育活動と積極的にリンクすることができるような方策が模索されています。

ところで、本学はこれまで、教職員や同窓会の協力を得ながら、生涯学習事業としてさまざまな情報を発信してきましたが、2018年度からその一層の充実を図り、からだと心のケアに関する講座、生活に関する講座、教養講座、ジュニア講座、子育て講座、専門職向け講座という6つのカテゴリーに分け、58講座が開講されています。また、大学病院においても、心身の健康に関する啓発活動が積極的に行われています。

地域との より良き関わりをめざして

超高齢社会の現在、医療、保健、福祉、教育は地域の特性を考慮して進められなければなりません。地域の課題解決を行うことのできる医療人育成のために、地域連携・地域支援を全学的な教育の課題として位置づけることも必要です。地域連携は、文字どおり地域との連携だけではなく、大学における研究・教育に大きく関わっていると言えるでしょう。地域連携推進センターに課された課題は大きいと言えます。また、地元自治体との連携をバネとして、さらに産業界や医療保健福祉関連の事業所等との積極的な連携が進展することが期待されています。

今後とも、北海道医療大学の地域連携活動に厚いご支援をお願いいたします。



タウンミーティング



薬学部
同窓会会長
桂 正俊

薬学部

薬学部同窓会は全国17支部(道内7、道外10)で活動を行っております。近年は会員数の増加に伴い、道内支部の細分化の動きが出ています。また、道外では逆に卒業生が減少していることから、本州支部の統合やブロック化も含めて考えていかなければなりません。各支部活動としては、多くの支部では、医療薬学セミナーと同時に支部総会や懇親会を開催し、その地域での薬業や医療に関する情報交換を行っているところがあります。最近では歯学部や他学部の同窓会とも連携したセミナーの開催が行われている支部もあり、学部の枠を越えた活動が始まっております。同窓会の活動はどのように会員同士の交流を深めながら、それぞれの仕事やモチベーションを高めることをひとつの目標としておりますので、全国の同窓生が一様に参画できる支部役員の

〈創立年:1979年 会員数:約5,738名〉

協力を得ながら活性化を図ってまいりたいと考えております。また、在学生も同窓会準会員としておりますので、入学時に行われる新入生宿泊オリエンテーションにも同窓会として参加し、卒業生の講演や新入生の交流が深まるようゲーム大会等を開催しています。さらに、卒業生の生涯教育として、医療薬学セミナーや将来ビジョン講座など卒業研修を企画するとともに「卒業生・在学生合同懇談会」を開催しており、我々同窓会としても、入学時から学生に対しての支援活動を通して、大学に寄与できるよう努力してまいりたいと考えております。

■ <http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~phalumni/>



歯学部
同窓会会長
養輪 隆宏

歯学部

平素は同窓会活動に深いご理解と多大なるご協力誠にありがとうございます。本年度、41期生の皆様が入学され、準会員として仲間に加わってくれましたこと、本会を代表し心よりお礼申し上げます。歯科医師をめざしての歩みが始まりましたが、その目的、目標をしっかりと達成するよう我々も全力で応援させていただきます。具体的には本同窓会では新入生宿泊オリエンテーションへの協力、OBによる応援講義、海外短期臨床研修・実習の費用補助、OBによる学外臨床実習の受入れ、卒業試験、国家試験の応援、同窓会賞の授与、謝恩会の協力など学生の皆様の将来像がより具体的なものとなるための心の整理整頓のお手伝いです。そして皆様が一つ一つ成果を積み重ねられ「知育・徳育・体育 三位一体の医療人」になるべく祈るのです。今年度は大阪北部地震、西日本豪雨災害、台風災害そして北海道胆振東部地震など大きな災害に見舞われ本当に大変な一年でした。被災された本学に関わるすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。「当たり前が当たり前ではない」こ

〈創立年:1984年 会員数:約3,113名〉

とを改めて気づかされた今、当たり前のごことに感謝して本会の運営に携わっていただく決意を新たにしております。義援金をお願いの際には多くの会員の皆様から心温まるご協力をいただきましたこと心からお礼申し上げます。「会員の福祉と親睦そして学部の発展に寄与する」ことが本会設立の目的です。その目的を果たすべく関係者一同全力で取り組む所存です。学部の発展は学生の幸せ無くて成し得ないものです。これからもさらに応援させていただきます。学生の皆様の成功、心からお祈りします。

■ http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~d_alumni/
 ■ dousoukai-honbu@clock.ocn.ne.jp
 ■ 事務局 札幌市北区北6条西6丁目2-11 第3山崎ビル4F
 TEL 011-299-9069 FAX 011-299-9609



看護学部
同窓会会長
川村 武昭

看護福祉学部／看護学科・札幌医療福祉専門学校／看護学科

福祉会(看護学科同窓会)は1997年に創立し、今年で活動23年目となりました。日頃からご尽力をいただいております同窓生をはじめ、各同窓会、そして、大学関係者の皆様に深く感謝申し上げます。さて、福祉会の主な活動内容は、臨床福祉学科との協働で開催しております看護福祉学部同窓会セミナー(年2回)と、看護福祉学部学会(年1回)の企画及び運営を軸に、歯学部をはじめとした4学部と歯学部附属歯科衛生士専門学校とともに協働で開催しております同窓会コラボ☆講演会(年1回)があります。また、これらの活動状況や各地で活躍する同窓生の近況報告等を同窓生の皆様にお伝えする会報誌(Fukueikai)の年1回の発行やホームページの運営、そして、同窓生同士の繋がりを保つものとして会員名簿の管理(3年毎の発行)を行っております。また、これら同窓会活動の検討のため、現在13名の同窓生で構成される同窓会理事会を年3回開催しております。今年度の新たな取組としては、オープンキャンパスへの出席でした。在学生との懇談コーナーに、新たに「卒業生との懇談」のテーブルを設けていただき、参加された高校生やその親御さんから看護職として働くことの憧れや期待、進路や卒業後の生活についての不

〈創立年:1997年 会員数:約2,000名〉

安などを伺うことができました。一同窓生としてこれまで経験したことが看護職をめざす高校生たちに少しでも役立ててもらえたらと考え取り組みました。

今後、福祉会としては、大学及び他学部の同窓会との連携を図りながら、改めて卒業生、そして在学生の皆さんの繋がりを保つ会をめざしていきたいと考えています。在学中は学業に、卒業後は仕事に追われ、家族や友人、同僚との繋がりがも増えていきますが、行き詰まりや悩みを感じたときに頭に浮かぶのは学業や実習をともに乗り越えてきた仲間たちのことではないでしょうか。私たち福祉会では、同窓会セミナーや各種講演会の開催、クラス会の開催助成等を通じて、皆さんが集まれるきっかけづくりを行っていきたく考えております。同窓生同士が繋がりが、安心して集い、語り合える機会が増えること、元気な同窓生が増えることが同窓会の発展と考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

■ <http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~kango/>
 ■ kango@hoku-iryo-u.ac.jp



臨床福祉学科
同窓会会長
小畑 友希

看護福祉学部／臨床福祉学科・札幌医療福祉専門学校／介護福祉学科

かつて経験したことのない最大震度7の地震が9月6日に発生し、数ヶ月が経過しましたが、未だ地震の影響が様々なところで続いていることと思います。特に福祉分野では災害弱者となりがちな障害者や高齢者の方と日頃から関わっており、この災害多発時代、平時より地域コミュニティの形成が重要であることを再認識しました。

9月の地震直後に予定されていた、看護福祉学部学会第15回学術学会(同窓会セミナーII)は中止となりましたが、9月24日には、当同窓会介護福祉部会で初となるセミナーを開催することができました。テーマは「介護福祉職の就労環境を考える～働きやすさ・離職防止の取り組み～」と題しシンポジウム形式で行いました。4施設の魅力ある職場づくりは他分野にも活かせる貴重な内容でした。また、昨年度に引き続き、10月に第2回地方同窓会を北見市で行いました。今回は長谷川聡先生にご参加いただき、3人の若手ソーシャ

〈創立年:2000年 会員数:約2,000名〉

ルワーカーと地元のベテランソーシャルワーカーと親睦を深めました。詳しくは同窓会ホームページをぜひご覧ください。リレーエッセイのコーナーでは懐かしい同窓生の近況が紹介されています。

福祉の担い手はこれからの超少子高齢社会を支えるには不可欠です。大変ではあるもののやりがいのある仕事として多くの同窓生が奮闘し活躍しています。そして、来年はいよいよ福祉・介護同窓会が設立して節目の20周年を迎えます。大学の発展や同窓生の力になれるように微力ながら力を注いでいければと思います。今後とも皆様のご指導ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

■ fukudo@hoku-iryo-u.ac.jp



臨床心理学科
同窓会会長
上河邊 力

心理科学部／臨床心理学科

当同窓会では例年、同窓会セミナーの開催や会報誌の発行を行ってまいりました。そのうち中心的な活動は同窓会セミナーの開催となっており、本年度も2回を盛況のうちに終えることができました。第1回はスポーツ心理学がテーマでした。アスリートがプレッシャーと闘う術を身につけたら最高のパフォーマンスを発揮できる状態に自分を持っていくという方法は、不安や落ち込みにも悩む方々の支援に役立つ視点でした。第2回は言語教育がテーマでした。言葉の壁をひとつの障がいと捉えた時に、言葉の違いに苦しむ方々に対する支援は心や身に障がいを持つ方々に対する支援と通ずるものがありました。同窓会セミナーは、専門家のみならず学生や一般の方々にも興味を持っていただけるようなテーマになるよう工夫をしております。どなたでも無料でご参加いただけますので、同窓会の活動を身近に

〈創立年:2006年 会員数:約550名〉

感じる機会として今後たくさんの方々にお願いいただければ嬉しく思います。

今年度は心理職初級国家資格、公認心理師試験の第1回を終えた年でもございました。当同窓会の中からも多くの公認心理師が誕生することになります。同窓会として、公認心理師の有資格者や受験生への支援体制を一層整えていく予定です。また、在学生の皆様方を対象とする準会員制度がスタートしておりますので、在学生の皆さんにも益となる活動を増し加えていきます。これからも当同窓会は、時代や環境の変化に合わせた同窓会運営を行って参る所存ですので、変わらぬご支援を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

■ <http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~p.dousou/> ■ shinri-dousoukai@hotmail.co.jp



理学療法学科
同窓会会長
武田 智洋

リハビリテーション科学部／理学療法学科

理学療法学科が開設されてから6年、当学科の第1期生は社会人3年目を迎えるようになっています。同時に当同窓会も3年目を迎えます。変わらずご指導いただいている泉唯史学部長、同窓会顧問の高橋尚明教授、また、設立から運営まであいの里ST会の先生方には多大なご支援ご協力をいただいております。改めて御礼申し上げます。今年は当学科から第3期生が卒業します。「北海道医療大学」からまた新たに「理学療法士」が誕生することを嬉しく思います。これまでの卒業生は北海道内のみならず、全国各地の医療機関や福祉施設等で幅広く活躍しています。これは非常に心強いことです。第3期生の皆さん、初めての仕事で慣れないことや悩むことが多くあるかと思いますが、そのような時は近くにいる卒業生を頼りにしてみてください。まだ、本学出身の先輩は数が少ないですが、きっと後輩

〈創立年:2017年 会員数:約130名〉

の力になってくれるはずですよ。同窓会としても全面的にサポートできるような環境や場を作りたいと思います。また、卒業教育の一環として、当学科教授を招いての同窓生向けセミナーを今年も企画しています。知識・経験が豊富な先生による講演、学生時代お世話になっていた先生にだからこそできる相談や質問など、一専門家として成長できるきっかけとなればと思います。今後後援会の皆様をはじめ、各学部同窓会の先生方にご指導いただきながら、本学の発展、同窓生の更なる活躍の一助となるべく活動して参りたいと思います。

■ <http://iryoudaibt.web.fc2.com/> ■ iryoudaibt@gmail.com



作業療法学科
同窓会会長
田丸 仁啓

リハビリテーション科学部／作業療法学科

〈創立年:2017年 会員数:約80名〉

作業療法学科同窓会は設立2年目となりましたが、まだまだ手探りの状態が続いており、昨年度同様にあいの里ST会の石黒会長をはじめ各先生方には多大なるご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。今年度は第2期卒業生の入会、総会の開催、毎月のあいの里ST会・理学療法学科同窓会との合同役員会の出席を主な活動として実施しました。また、2度の会報発行を通じて会員への現状報告を行いました。

現在、約80名で活動していますが、新入会員は毎年40名とまだまだ少ない会員数の期間が続きます。少人数という特徴を活かして密に連携を取りながら、当会が同窓生、在学教員、在学生の繋がる場としてあり続け、発展していくことを願っています。

今年度は、3月9日に札幌サテライトキャンパスで札幌すがた医院の岩永輝明先生を講師にお招きし、第1回作業療法学科同窓会セミナーを開催します。テーマは「医療と介護の連携～新人OTに知っておいて欲しいこと～」ということで、1、2年目の作業療法士である私たちに向けてお話いただけます。また、来年度においても積極的にセミナーを開催し、同窓会としての活動を活性化していきたいと考えております。最後に後援会の皆様、各同窓会役員の皆様のご理解、ご協力の下に、当会の運営が成り立っていますことに深く御礼申し上げます。

■ hokuriyodai.ot@gmail.com



言語聴覚療法学科
同窓会会長
石黒 恵美子

心理科学部／言語聴覚療法学科・ 札幌医療福祉専門学校／言語聴覚療法学科・言語聴覚療法専攻学科

〈創立年:1994年 会員数:約1,149名〉

当会は札幌医療福祉専門学校の言語聴覚療法学科の第1期卒業生により設立されました。講演会の企画・運営と年に2回の会報の発行を通して在学生・卒業生の皆様への情報提供を中心に活動しております。今年度は、6月30日に総会と言語聴覚療法学科同窓会セミナーを開催しました。本学助教の飯泉智子先生を講師にお招きし「摂食嚥下機能から治療について考える一治療的および代償的アプローチについて」をテーマに、臨床場面に生かせる基礎から最新の知見まで貴重なお話をうかがいました。現在は3月9日の第12弾コラボ☆講演会「摂食嚥下障害の評価と訓練の

実際」、6月の同窓会セミナーの開催に向け準備を進めております。ぜひ多くの皆様にご参加いただきたいと存じます。最後に、この場をお借りし後援会の皆様、内外の先生方のご理解・ご協力を賜り、滞りなく当会の運営を行っておりますことに、深く御礼申し上げます。今後も同窓会活動を通じて皆様のお役に立てるよう、役員一同努力して参ります。

■ st-kai@hoku-iryu-u.ac.jp

北海道医療大学同窓会支部等連絡先

■薬学部

| 支部名 | 支部長(期) | 連絡先 |
|---------|------------|---------------|
| 札幌支部 | 多田 正人(4) | ☎011-812-2311 |
| 道北支部 | 沼野 達行(10) | ☎0166-32-8181 |
| 十勝支部 | 石原 敦(3) | ☎0155-28-3344 |
| 道南支部 | 吉田 元(12) | ☎0138-27-7727 |
| 釧根支部 | 羽田野 貴志(11) | ☎0154-32-1337 |
| オホーツク支部 | 新井 俊(10) | ☎0157-31-3310 |
| 日胆支部 | 山田 達生(2) | ☎0142-76-5258 |
| 青森支部 | 三上 章(1) | ☎017-729-0330 |
| 栃木支部 | 橋本 秀雄(3) | ☎0285-54-5080 |
| 茨城支部 | 西野 郁郎(1) | ☎0293-42-0239 |
| 北越支部 | 本間 信哉(3) | ☎0254-26-7676 |
| 神奈川支部 | 川田 哲(3) | ☎045-742-2301 |
| 東海支部 | 高尾 信彦(2) | ☎053-451-0821 |
| 関西支部 | 山口 和俊(9) | ☎0721-28-6261 |
| 中四国支部 | 勝原 聡(3) | ☎082-291-2104 |
| 九州支部 | 山田 昌人(3) | ☎0965-52-5750 |
| 沖縄支部 | 村田 成夫(4) | ☎098-956-1093 |

■歯学部

| 支部名 | 支部長(期) | 連絡先 |
|----------|-----------|---------------------------------------|
| 北海道支部連合会 | 佐藤 明理(4) | 医療法人社団明雄会そのまち歯科 ☎011-387-8811 |
| 青森県支部 | 佐藤 孝治(2) | 佐藤歯科医院 ☎0172-36-0412 |
| 秋田県支部 | 竹内 亨(7) | 竹内歯科医院 ☎0182-22-2001 |
| 岩手県支部 | 高野 玄(18) | 高野歯科クリニック ☎0197-23-2488 |
| 宮城県支部 | 佐々木 隆二(6) | ささき歯科 ☎022-383-8849 |
| 山形県支部 | 芳賀 俊和(5) | 芳賀歯科医院 ☎0238-84-8107 |
| 福島県支部 | 外島 昭夫(7) | ホワイト歯科医院 ☎024-875-3232 |
| 茨城県支部 | 秦 博文(2) | 社会医療法人愛宣会ひたち医療センター歯科 ☎0294-37-0713 |
| 栃木県支部 | 松井 章(2) | 松井歯科医院 ☎028-656-4618 |
| 群馬県支部 | 篠崎 広治(1) | しのざき歯科医院 ☎0276-48-0118 |
| 埼玉県支部 | 堅木 浩樹(5) | ヒロデンタルクリニック ☎049-232-4432 |
| 千葉県支部 | 寺山 功(4) | 葉山歯科医院 ☎0471-64-6480 |
| 東京都支部 | 蛸名 勝之(5) | エビナ歯科医院 ☎03-3200-4818 |

| 支部名 | 支部長(期) | 連絡先 |
|--------|-----------|---------------------------------|
| 神奈川県支部 | 阿部 智彦(2) | 阿部歯科医院 ☎045-953-7676 |
| 山梨県支部 | 安田 伸一(13) | やすだデンタルクリニック ☎055-243-8461 |
| 長野県支部 | 小池 文一(2) | 小池歯科医院 ☎026-224-1482 |
| 新潟県支部 | 山下 克弥(9) | わかば歯科医院 ☎0258-83-1010 |
| 富山県支部 | 藤川 晃(5) | 藤川歯科医院 ☎0764-83-2231 |
| 石川県支部 | 久保 伸一郎(2) | 粟津歯科医院 ☎0761-44-4852 |
| 愛知県支部 | 木村 英雄(1) | こめの歯科医院 ☎052-451-1182 |
| 京都府支部 | 橋本 昌美(6) | こがはしもと歯科医院 ☎075-935-8148 |
| 大阪府支部 | 西 一幸(1) | 西歯科医院 ☎06-6793-7500 |
| 広島県支部 | 神原 滋(6) | 明王台クリニック ☎084-952-2281 |
| 四国支部 | 谷本 良司(3) | 医療法人谷本歯科医院 ☎0883-42-2069 |
| 九州支部 | 清川 宗克(3) | 清川歯科・口腔外科クリニック ☎092-822-8805 |
| 沖縄県支部 | 玉城 均(1) | ながた歯科医院 ☎098-854-1182 |

■看護福祉学部

☎0133-23-1211

- 看護学科(内線3641)担当:明野(実践基礎看護学講座)
- 臨床福祉学科(内線3708)担当:池森(介護福祉学講座)

■心理科学部・リハビリテーション科学部

☎0133-23-1211

(学務部 心理科学課・リハビリテーション科学課)

- 臨床心理学科 ○作業療法学科
- 理学療法学科 ○言語聴覚療法学科



歯学部
同窓会会長
梶 美奈子

歯学部附属歯科衛生士専門学校

〈創立年:1991年 正会員数:約1,208名、準会員:32名〉

本会の目的は、1.本校で学んだ高い理念と教養を保つ。2.自主協調の精神に基づき広く社会に貢献する。3.本校の発展に寄与し、併せて学術研究の向上に努める。と会則に記載されています。1991年の発足以降、前述の目的に沿って、あるいは、目的自体を目標にして運営を行ってまいりました。会員数が1,000名を超え、たくさんの卒業生が臨床、教育、公的機関などあらゆる場で活躍しております。たくさんの同窓生と学会や講習会でお会いして皆様が高い意識を持って日々患者さんやクライアントに接していることがわかります。また、国内外の学会等で表彰を受けている同窓生の噂もちらほらと耳にします。同じ歯科衛生士として、そして、同窓生として大変嬉しく思います。同窓生たちは、本校で学んだという基盤を武器に各部門で活躍されているのだと思います。そんな同窓生たちに恥じぬように、同窓会はしっかりと歩みを進め、学校と連携して新入生宿泊オリエンテーションへの協力や在校生に何が必要かなど、情報交換を行って支援をさせていただいております。

同窓会の行事はさまざまですが、年に2回講演会を行っております。一つは、同窓会独自で行うセミナーで毎年役員が講師の選択に頭を悩ませておりますが、歯科に限らず、コミュニケーションに関する事、メンタルトレーニングに関する事を講演いただくなど趣向を凝らし、在校生や一般の方でも多くの方々にご参加いただいております。もう一つは、他の学部と一緒に連携してコラボ講演会を行い、口腔から全身の健康、食べることなどについて学びます。同窓会のあり方として、会員のみならず在校生もサポートしていかなくてはなりません。会自体が学校と連携し、ともに成長して行くことで会員、在校生にとって意味のある会となるように努力してまいります。

■ http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~katatakuri/
■ okahashi@hoku-iryu-u.ac.jp

歯学部附属歯科衛生士専門学校同窓会支部連絡先

北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校 ☎0133-23-1211(内線3482)担当:大山・岡橋

卒業生を対象とした各セミナー・
公開講座に関するお問い合わせ先

学術交流推進部
地域連携課

☎0133-23-1129(直通) E-mail:nice@hoku-iryu-u.ac.jp

2019年度 入試結果速報

北海道医療大学

一般前期入試を全国12会場で実施。

本年度は1月30日(水)・31日(木)の2日間の日程で、札幌をはじめ、東北から関東、関西、九州までの全国12会場で一般前期入試を実施しました。総志願者は、2,278名でした。*

センター前期入試は募集回数が2回。

センター前期Aは3教科型、センター前期Bは2教科型入試です。それぞれの日程に出願できるので、両方に出願した場合は合格のチャンスが2回に増えます。志願者数は、1,501名でした。

編入学Ⅱ期に12名の志願。

編入学試験を札幌、東京、大阪の3会場で実施しました。全体で12名の志願がありました。

社会人特別選抜入試に4名の志願。

2018年度入試から社会人特別選抜入試を実施しました。本年度は全体で4名の志願がありました。

■編入学試験(Ⅱ期)結果

※()内は前年度実績

| 学部・学科名 | 入試形態 | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 実質倍率 |
|-------------------------|------|--------------|-------|-------|-------|---------------|
| 薬学部 ●薬学科 | 2年次 | 3(3) | 2(-) | 2(-) | 1(-) | 2.0(-) |
| | 3年次 | | 1(-) | 1(-) | 0(-) | 0.0(-) |
| 歯学部 ●歯学科 | 2年次 | 若干名 (若干名) | 1(1) | 1(1) | 1(0) | 1.0(-) |
| | 3年次 | | 4(0) | 4(0) | 1(0) | 4.0(0) |
| 看護福祉学部 ●看護学科 | 社会人 | 3(3) | - (0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) |
| | 一般 | | 1(0) | 1(0) | 1(0) | 1.0(0) |
| ●臨床福祉学科 | 社会人 | 3(3) | - (0) | - (0) | - (0) | - (0) |
| | 一般 | | 1(0) | 1(0) | 1(0) | 1.0(0) |
| | 指定校 | | - (0) | 0(0) | 0(1) | 0(0) |
| 心理科学部 ●臨床心理学科 | 社会人 | 若干名 (若干名) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) |
| | 一般 | | 1(1) | 1(1) | 1(1) | 1.0(1.0) |
| リハビリテーション科学部 ●理学療法学科 | 社会人 | 2(2) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) |
| | 一般 | | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) |
| ●作業療法学科 | 社会人 | 2(2) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) |
| | 一般 | | 1(0) | 1(0) | 0(0) | 0.0(0) |
| ●言語聴覚療法学科 | 社会人 | 3(3) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) |
| | 一般 | | 0(2) | 0(2) | 0(0) | 0(-) |
| 合計 | | | - | 12(6) | 12(6) | 6(1) 2.0(6.0) |

※昨年度合計は「薬学部社会人、一般(～2018年度まで実施)」を含む。

■社会人特別選抜入試結果*

※()内は前年度実績

| 学部・学科名 | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 実質倍率 |
|----------------------|--------------|------|------|------|---------------|
| 薬学部 ●薬学科 | | 2(1) | 2(1) | 1(0) | 2.0(-) |
| 看護福祉学部 ●看護学科 | 若干名 (若干名) | 1(-) | 1(-) | 0(-) | 0.0(-) |
| リハビリテーション科学部 ●作業療法学科 | | 1(-) | 1(-) | 1(-) | 1.0(-) |
| 合計 | | - | 4(4) | 4(4) | 2(3) 2.0(1.3) |

※2) 志願者のいた学科のみ掲載。昨年度合計は「歯学部、臨床心理学科」を含む。

■一般・センター前期入試結果

※()内は前年度実績

| 学部・学科名 | 入試形態 | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 実質倍率 | |
|-------------------------|--------------|----------|--------------|--------------|------------|----------|----------|
| 薬学部 ●薬学科 | 一般 前期入試 | 1/30 | 191(200) | 185(191) | 154(133) | 2.0(2.5) | |
| | | 1/31 | 134(152) | 121(142) | 41(41) | 2.0(2.1) | |
| | センター 前期入試 | A | 15(15) | 196(190) | 196(190) | 100(71) | 2.0(2.7) |
| | | B | 10(10) | 80(86) | 80(86) | 41(41) | 2.0(2.1) |
| 歯学部 ●歯学科 | 一般 前期入試 | 1/30 | 58(53) | 56(48) | 79(55) | 1.4(1.4) | |
| | | 1/31 | 25(25) | 64(33) | 57(27) | 1.1(1.1) | |
| | センター 前期入試 | A | 6(6) | 142(119) | 142(119) | 127(110) | 1.1(1.1) |
| | | B | 4(4) | 47(48) | 47(48) | 41(46) | 1.1(1.0) |
| 看護福祉学部 ●看護学科 | 一般 前期入試 | 1/30 | 331(388) | 326(382) | 112(102) | 4.8(6.5) | |
| | | 1/31 | 40(40) | 234(292) | 213(282) | 46(45) | 4.4(4.4) |
| | センター 前期入試 | A | 8(8) | 204(196) | 204(196) | 24(24) | 2.7(4.2) |
| | | B | 6(6) | 65(101) | 65(101) | 24(24) | 2.7(4.2) |
| ●臨床福祉学科 | 一般 前期入試 | 1/30 | 91(90) | 89(88) | 94(96) | 1.6(1.7) | |
| | | 1/31 | 23(23) | 69(77) | 64(72) | 67(49) | 1.1(1.2) |
| | センター 前期入試 | A | 6(6) | 71(59) | 71(59) | 43(48) | 1.0(1.1) |
| | | B | 4(4) | 45(51) | 45(51) | 43(48) | 1.0(1.1) |
| 心理科学部 ●臨床心理学科 | 一般 前期入試 | 1/30 | 127(124) | 125(121) | 126(114) | 1.7(1.8) | |
| | | 1/31 | 24(24) | 99(96) | 95(88) | 73(72) | 1.3(1.3) |
| | センター 前期入試 | A | 8(8) | 97(92) | 97(92) | 61(78) | 1.1(1.1) |
| | | B | 6(6) | 65(82) | 65(82) | 61(78) | 1.1(1.1) |
| リハビリテーション科学部 ●理学療法学科 | 一般 前期入試 | 1/30 | 151(146) | 151(144) | 77(62) | 3.4(4.2) | |
| | | 1/31 | 30(30) | 118(121) | 114(119) | 40(34) | 3.5(3.2) |
| | センター 前期入試 | A | 7(7) | 138(110) | 138(110) | 17(18) | 2.8(3.7) |
| | | B | 6(6) | 48(66) | 48(66) | 17(18) | 2.8(3.7) |
| ●作業療法学科 | 一般 前期入試 | 1/30 | 161(163) | 160(159) | 88(73) | 3.2(4.0) | |
| | | 1/31 | 14(14) | 124(138) | 120(133) | 57(44) | 2.3(2.3) |
| | センター 前期入試 | A | 4(4) | 133(102) | 133(102) | 23(28) | 1.9(2.9) |
| | | B | 3(3) | 43(81) | 43(81) | 23(28) | 1.9(2.9) |
| ●言語聴覚療法学科 | 一般 前期入試 | 1/30 | 101(114) | 101(111) | 99(101) | 1.9(2.0) | |
| | | 1/31 | 14(14) | 90(97) | 87(94) | 65(57) | 1.4(1.5) |
| | センター 前期入試 | A | 8(8) | 91(83) | 91(83) | 35(46) | 1.0(1.3) |
| | | B | 6(6) | 36(59) | 36(59) | 35(46) | 1.0(1.3) |
| 医療技術学部 ●臨床検査学科 | 一般 前期入試 | 1/30 | 75(-) | 74(-) | 70(-) | 1.9(-) | |
| | 1/31 | 28(-) | 60(-) | 56(-) | 70(-) | 1.9(-) | |
| 合計 | 一般 前期入試 | 1/30 | 1,286(1,278) | 1,267(1,244) | 899(736) | 2.4(3.0) | |
| | 1/31 | 235(235) | 992(1,006) | 927(957) | 285(329) | 1.5(1.7) | |
| | センター 前期入試 | A | 62(62) | 1,072(951) | 1,072(951) | 575(482) | 1.9(2.0) |
| | B | 45(45) | 429(574) | 429(574) | 285(329) | 1.5(1.7) | |

※1) 外国人留学生特別入試を含む。

特別賞 受賞者をご紹介します。



■安倍賞

■受賞理由
平成30年度の「障害者の生涯学習支援活動」において、文部科学大臣表彰を受けたことが認められました。また、当別町教育委員会から教育善行賞も受賞しました。



■堂垣内賞

■受賞理由
3年次に2015年の国わかやま国体に北海道代表として参加したほか、延べ5カ月間の実務実習を優秀な成績で修了するなど、「知育・徳育・体育 三位一体による医療人としての全人格の完成」を体現しました。



■堂垣内賞

■受賞理由
本学のウエイトトレーニング部に所属し、第25回北海道ベンチプレス選手権大会・女子72kg級でベンチプレス北海道記録を更新して1位に入賞するなど、様々な大会で素晴らしい成績を残しました。

北海道医療大学オープンカレッジ準備委員会

薬学部 6年 石屋 和浩

臨床福祉学部 4年 五味 里沙

私の学生時代

リハビリテーション科学部
言語聴覚療法学科

講師 柳田 早織



私は本学言語聴覚療法学科を2007年に卒業しました。学部生時代のことを書こうかとも思ったのですが、こちらでは学生時代で一番充実して思い入れのある博士課程の学生時代を振り返りたいと思います。私が北海道大学大学院医学研究科に入学した2014年頃は、ちょうど私の研究テーマでもある「痙攣性発声障害」に関する臨床研究が立て続けに実施され、ご指導をいただいていた西澤典子教授(本学リハビリテーション科学部)から「今、この波に乗らないと!」と強く後押しされ、受験を決意しました。入学1年目は既定単位数の修得に追われる日々で、夜間開講される科目を優先的に選択した結果、泌尿器科の病

棟へお邪魔するなど貴重な体験ができました。

入学と同時に、福田諭北大名誉教授から「週1回は外来にも出るように!」とご指導いただき北大耳鼻科の音声外来への参加がきっかけとなり、外科的治療が必要な音声障害を含めたあらゆる音声障害の臨床に関わるようになりました。さらに痙攣性発声障害に関する治療が

北大病院で実施されていたことから音声評価を担当したり、手術室へ入って患者さんに手が届くほどの至近距離で実際の手術手技を見学する機会を頂き、溝口兼司先生と畠山博充先生には大変感謝しています。また、フィリピンから1年間研修に来ていたMilabelle Lingan医師との思い出もとても心に残っています。彼女はいつも私



2014年当時の北大耳鼻科音声外来のメンバー、左から2番目が私。

のつたない英語を熱心に聞いてくれ、学問的な話から他愛もないことまで外来や医局でたくさん話しました。あれから5年近く経ちますが今でも日本で災害が起こるたびに心配して連絡をくれたり、お互いの近況を報告したりと交流が続いています。学位の取得にあたり、北大耳鼻科医局員の先生方、秘書さん、そして何より論文指導をいただいた本間明宏教授には感謝しかありません。この経験を通じて得られた恩師たちのご縁や経験をこれからも大切にしていきたいと思っています。

私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は柳田早織講師と近藤啓講師のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

私の学生時代

医療技術学部
臨床検査学科

講師 近藤 啓



白衣を着て、試験管を振って、理科の実験みたいでおもしろそう、そんな適当とも思える動機で入学したのは、西野学園札幌医学技術福祉専門学校の臨床検査技師科でした。

専門学校は朝から夕方までびっしりと授業が組み込まれ、特に、1年生の時は座学がほとんどのため、高校生活とあまり変わらない感

じでした。2年生になると学内実習が始まり、採血実習で採取した自分の血液を使って生化学検査や血液検査の実習、細菌培養、病理組織標本の作製、心電図をはじめとする生理検査などなどさまざまな学内実習をグループの仲間とワイワイ楽しくやっていましたが、その後のレポート書きがとにかく苦手でした。

学校の向かいには名物のお寿司屋さんがあり、お昼は学生用に500円メニューを用意してくれていて、生ちらしや鉄火丼、天井など、どんなに大盛りにしてもお値段据え置きで、大食いの学生時代には非常に助かりました。今より贅沢なランチを食べていましたね…。

学校以外では遊んでばかりの記憶しかありません。友達4畳半の部屋に10人ぐらい集まり、安い焼酎で宅飲みしたり、徹夜で桃鉄やったり、友達とバンドを組んでスタジオで音を鳴らしたり、温泉旅行に行ったり、お花見でバーベキューしたり…今考えると仲間恵まれた学生時代でした。

3年生になるとさすがに遊んでばかりは



病院実習での一コマ。人生で一番痩せている時ですね。

れません。病院での臨床実習が始まります。4月から夏の終わりまでの長期実習であったと思います。私は、国立札幌病院(現北海道がんセンター)の臨床検査科でお世話になりました。そこでの諸先輩方の指導を受けながら現場での臨床検査を学び、同時に人に教えるということにも興味を抱きました。

専門学校を卒業後、札幌医科大学附属病院に就職し、病理検査をはじめとするさまざまな検査業務を経験し、病院実習にくる学生の指導にも携わることができました。就職してから5年が過ぎたころに、社会人大学院制度を利用し札幌医科大学大学院医学研究科に入学、働きながら4年間の大学院生活を送ることになります。毎日、日中は臨床検査業務をこなし、夜は研究業務を行いました。朝まで実験をし、そのまま仕事を行う日もありました。正直、辛い日々ではありましたが、あの時があって今があるのをとても実感しています。



数少ないライブの時の写真。
本来はドラムなんですけど…右から2人目が私です。

OG訪問

札幌あいの里キャンパスにある地域包括ケアセンターで在宅医療・介護の現場を支える卒業生紹介の第2弾。前号のケアマネジャー 峯岸さんに続き、今回は訪問看護師の出良美香さんです。

北海道医療大学地域包括ケアセンター
訪問看護ステーション 看護師

出良 美香さん（看護福祉学部看護学科2004年3月卒業）



オペ室、病棟、そして在宅

卒業後15年、出良さんは結婚・出産というライフイベントを経て、子育てが始まってからは時にパートという雇用形態も柔軟に取り入れながら自身の生活と看護師の仕事と両立してきました。長かった手術室勤務では小さなミスが命に直結する緊張感、一期一会ともいえる患者さんとの一瞬一瞬を大切に看護を実践、病棟勤務も経験し、昨年10月「ずっとやりたかった」訪問看護の道に入りました。「生活の場で行う支援が、抱いていた看護のイメージの枠を超えた新鮮なものに映った」という大学での実習から、「いつかは訪問看護」という気持ちがあったようです。

関わりはじっくり深く

同行させていただいた訪問先は、じん肺で在宅人工呼吸療法が必要なYさん宅です。毎日日中3時間のマスク使用での陽圧換気が終わるタイミングを見計らった訪問でした。出良さんは血圧や酸素飽和度を手際よく測り、Yさんの状態を把握します。マスクをはずしたYさんとなごやかに会話する出良さんは生活空間に見事に溶け込んでいました。大手建設業に勤めていたYさんがかつて手がけた大きな仕事の話に笑顔でうなずきながら、出良さんは



訪問時に携帯するカバンの中を拝見。右端は最新のタブレット型ポータブルエコー。「本学の明野伸次講師と連携し、エコーの使用方を教えてもらいながら、膀胱を観察し残尿状況を確認したり、実用化を図っているところです」(出良さん)。



Yさんは酸素供給装置からのびる長さ10mの鼻カニューラ(チューブ)が離せませんが、自宅で過ごすその表情はいきいき。この日はエアロバイクで2分間のリハビリテーションをしました。

この場で得られる情報のすべてを記憶にインプットしていきます。「私の仕事は次回訪問時まで利用者さんとご家族が不安なく、より快適に過ごせるようにすること。そのためには利用者さんを知ることが欠かせません。知れば知るほど信頼関係が築かれていき、思いに寄り添うという看護の原点に立っているという実感が強くなります」(出良さん)。

基本の大切さ

長かった病院勤務との違いを聞いてみました。「訪問先には病院のように近くに先輩やドクターはいません。緊急体制や医療機器、すぐ参照できる画像や検査データも揃っていません。約1時間で、1人で情報を集めて判断して処置します。問診、聴診、視診、触診からケアを考察するフィジカルアセスメント能力の重要性を再認識しました。異常を見逃してはならないという責任は重く、いつも緊張します」(出良さん)。診療科別ではないため求められる疾病の知識が幅広いとも言います。夜勤はありませんが、1週間交替で緊急用携帯電話を持ち帰り、利用者さんから緊急連絡があれば対応します。「でも、その責任の重さがやりがいです」と目を輝かせる出良さんの目標は、数多くある研



修参加の機会を活用して視野と得意分野を広げること。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会にも入会しました。また、いずれ向き合うであろう看取りに備え、倫理観、人間性を高めることも意識しているようです。

いろんなスタイルで

「看護師になって本当によかった」。出良さんの一言です。勤務地、分野、働き方が選択でき、働く母親に理解ある職場だからやりがいを感じ続けられたといいます。時間をやりくりし家族を大切にしながらも仕事の向上心は忘れず、でも気負うことなく軽やかに生きる出良さんは、後輩の素敵なロールモデルの一人です。



看護師5人で利用者約50人をみています。利用者ごとに担当を決めますが、訪問は5人チームで動きます。毎日朝と夕方のカンファレンスですべての患者さんの情報を共有します。

あ の 時 き の “ち ょ っ と い い 話”、今 ま さ に 進 ん で い る “新 し い 取 り 組 み”。
北 海 道 医 療 大 学 が、こ れ か ら 未 来 へ 向 か う 姿 を 探 る た め に、
本 学 の 歩 み を “知 る 人”、“つ く る 人” に、お 話 を う か が っ て い け ま す。

育てたいのは、チーム医療の現場で活躍できる心理専門職です。

研究と臨床は、両輪。

2001年。医学部合格をめざし、浪人生活3年目に突入。心理学に興味はあったものの、文系のイメージが強い心理学系への進学など考えもしませんでした。そんな私の心を動かしたのが、新設となる本学心理科学部のパンフレット。「心を科学的に理解する」「医科学系も学ぶ」という内容に「これだ!」と思い、臨床心理学1期生となりました。

医学部に行った仲間たちに、負けたくない。そんな意欲があった私は、多くの知識と技術を得て卒業できるよう、がんばって勉強しました。アルバイト、サークル活動、海外旅行など、やりたいと思ったことは何でも実行しました。中でも、私の原点は、坂野雄二先生のゼミで研究のおもしろさを実感したこと、坂野先生の「Scientist & Practitioner (科学者実践家)」、つまり、研究と臨床は両輪という姿勢に感銘を受けたことです。修士課程、博士課程と学びを深める中で、私も教育・研究・臨床のすべてに携わりたいという思いが明確になっていきました。

学部時代から関心があり、今も主な研究テーマとしているのは「痛み」です。慢性的な痛みの8割以上は、原因不明。解明されていないことが多い一方で、心理社会的要因が痛みに影響することはわかっています。私たち心理専門職が行うのは、認知行動療法に基づいたアプローチ。患者さん自身が痛みに関する事実を客観的に捉え、どうしたらよくなっていくかという展望を描けるよう支援します。心理的援助によって、痛みや生活が改善するケースも少なくありません。そして、身体と心の



本谷准教授(右から6番目)が代表幹事となり企画・運営を行った、心理科学部1期生の卒業謝恩会にて。金澤准教授(左から5番目)を含め、坂野ゼミの同期10名も全員一緒に写っている。同窓生の交流は、臨床・学術交流の場面や同窓会の活動などを通して現在も続いている。

両面から痛みに迫る最先端の研究・臨床現場が、福島県立医科大学。2010年から6年間、私が在籍していた職場です。

東日本大震災での経験。

福島県立医科大学では、教育・研究職として医学部生対象の科目などを担当しながら、痛みの研究にも取り組みました。また、附属病院や大学健康管理センターでの臨床活動も行っていました。そして、一生忘れられない経験も。東日本大震災です。

着任した2010年、私は本学大学院の博士課程3年目でした。私にとって最後の卒業式・修了式は、2011年3月11日。その前日、仙台空港から北海道へ向かいました。そして、式を終えた後のこと。福島にいる妻から「これから大きな地震がくるみたい」と電話があり、悲痛の声を聞きました。テレビでは、見覚えのある光景が。車を停めてきた仙台空港が、土砂にのみこまれていく様子でした。わずか一日違いで、命拾いました。福島に戻れたのは翌日深夜。家族は無事でした。後日、車も発見され、泥まみれのナンバープレートだけが戻ってきました。

家族との再会後、すぐに職場へと向かうと、想像以上の大混乱。附属病院には被災した患者さんが次々と到着し、スタッフ総動員でケアにあたりました。同時に、被害が大きい沿岸地域へ出向しての支援も開始。私も、そのチームに加わりました。

被災地では、職種や立場は関係ありません。避難している方々の話を聞いたり、爪を切ってあげたり、「家はどうしてくれるんだ」と怒鳴られることも多々ありました。心理専門職というより、ひとりの人間として、できることは何でもしました。そして、支援にあたる保健・医療・福祉の専門職との連携から、多職種の職能や存在意義を再認識しました。より深く考えるようになったのは、現場へ行くことの重要性。そして、チーム医療・地域医療の中での心理専門職の役割についてです。

震災の経験から、今も続けていることがあります。それは、地域住民と直接関わる方々に、心理専門職の発想を伝えること。自治体の職員や

本谷 亮さん

(心理科学部
臨床心理学科 1期生)

臨床心理学科准教授。本学大学院在籍時から病院や区役所の非常勤心理士として活動。2010年からは福島県立医科大学で教育・研究活動に加え、東日本大震災の被災者支援などにも従事。臨床心理学科同窓会では2006年から会長、2017年から顧問を務める。



医療専門職向けのセミナーなどに、積極的に協力しています。研究面でも、理学療法士向けのペインマネジメントプログラムを開発中。大学間の連携で、取り組みを進めています。いずれの活動にも、チーム医療・地域医療に、心理的アプローチをもっと役立てたいという思いがあります。そして、自分自身も病院、保健所、自治体、企業など臨床活動の領域を広げ、チーム医療・地域医療に携わってきました。

学生に、現場での経験を。

被災者支援が落ち着きはじめた2016年、母校に戻りました。自分の経験をもとに、チーム医療・地域医療で活躍できる心理専門職を育てたい。そんな思いで、日々学生と向き合っています。

とくに意識しているのは、学生が多くの現場で経験を積めるよう、環境を整えること。私の臨床現場でも、大学院生を同席・見学させています。たとえば、市立札幌病院の腎臓移植外科では、生体腎移植を受ける患者さんと臓器を提供する方のメンタルヘルスチェックを実施。医師・看護師へのフィードバックも行います。また、本学の心理臨床・発達支援センターでは、地域住民の方々のカウンセリングを担当しています。現場で見たこと、考えたこと。それは、必ず将来の糧になります。

また、2018年度からは公認心理師の養成がはじまりました。それに伴い、医療機関などでの実習も必修化されましたが、学科設立当時から臨地実習を行っているのが本学の強み。私は実習担当教員として、その特色をさらに大きくしていけるよう、実習教育の拡充にも取り組んでいます。かつて私も、さまざまな学びの場で多くのことを学びました。そんな環境を提供してくれた、先生方や実習先の職員の方々のありがたさを感じています。

医療大をめぐるご縁は、一生ものです。福島にいる間も、同窓会の活動を通して交流は続きました。その中のひとりが、本学科教員の金澤潤一郎准教授。1期生であり、坂野先生のゼミ仲間が同僚です。実は、私の妻も医療大の卒業生。そして、恩師・坂野先生には、今もご指導をいただいています。私の原点であり、いつも支えとなってくれた医療大。これからも、恩返しは続きます。

インターネットによるご寄附が可能となりました

学園では、皆様からのご寄附を教育研究活動や施設設備の整備、学生支援ほか学園環境の充実のために活用させていただいております。

このたび、インターネットを通じてパソコンやスマートフォンなどから簡便にご寄附いただける

システムを導入いたしましたので、引き続き皆様からの温かいご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



STEP 1 本学ホームページの「学園へのご支援のお願い」をクリック。



STEP 2 左側の「寄附のお申し込み方法」をクリック。

インターネットによるお申し込み (クレジットカード・コンビニエンスストア・Pay-easy)

パソコン、スマートフォンなどからアクセスし、煩雑な手続きを経ずご寄附いただけます。

なお、インターネットによるお申し込みは、学園が寄附の決済代行を委託している株式会社エフレジの「F-REGI寄附支払い」を利用したお手続きとなります。

スマートフォンからのご寄附のお申し込みはこちら。

https://kifu.f-regi.com/contribute/hoku_iryu_u



銀行振込によるお申し込み

金融機関ATMやネットバンキング、銀行窓口からご寄附いただけます。

寄附申込書をダウンロードするボタンから寄附申込書を印刷し、必要事項をご記入のうえ、以下のお問い合わせ先まで郵送またはEメール添付にてお送りください。なお、電話連絡いただけましたら、郵送にて寄附申込書をお届けいたします。

税制上の優遇措置

個人、法人を問わず、寄附者の皆様には寄附金額に応じて寄附金控除を受けることができます。

詳細は、ホームページ左側の「税制上の優遇措置」からご確認ください。

ご寄附に関する
お問い合わせ先

北海道医療大学 学術交流推進部

TEL 0133-23-1129

FAX 0133-23-1296

E-mail [kyousui@hoku-iryu-u.ac.jp](mailto:kyou sui@hoku-iryu-u.ac.jp)

EDITOR'S NOTE

早いもので年度末を迎えました。今年度下半期は9月の北海道胆振東部地震以降、例年以上に慌ただしく過ぎたように感じています。リハビリテーション科学部では、震災発生時に臨床実習を行っており、学生の安否確認や実習施設への連絡など、「想定外」の対応が求められました。この教訓をきっかけにマニュアル整備が進み、次は「想定内」と言えるように日ごろの危機管理を高めていきたいと思います(できれば次があってほしくないですが...)。今年度は5月1日に皇太子さまが即位され、日本全体が新しくスタートする年になります。本学でも医療技術学部臨床検査学科が新設され、新たな体制で迎える春です。春になると大学入学時のワクワクした気持ちを思い出します。「2018年問題」と言われた年を過ぎ、激変期を迎えた時代において、本学がいつまでも魅力ある大学であり続け、医療者をめざすことにワクワクした大勢の学生が集まる、そんな春をこれからも迎えられると良いですね。

(S:A記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.172

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 仲西 康裕 松田 康裕
遠藤 紀美恵 志渡 昇一 金澤 潤一郎 澤田 篤史
本家 寿洋 柳田 早織 大山 静江 杉谷 昌彦
三川 清輝 小林 伶

発行日 ● 2019年3月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
TEL:0133-22-2113
<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/>

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。